

「食育プロジェクト」 ～トウモロコシ・枝豆収穫体験～

目 標

- ・総合的な学習の時間「食育プロジェクト」及び5年生の社会科「食糧生産を支える人々」の発展の学習において、さとらんどにある畑にてトウモロコシと枝豆の夏の収穫作業などを体験することで、農業に携わる人々の工夫や努力に気付き、感謝の気持ちをもつなど食への関心を高める。

育てたい力

- 体験活動を通して、農業生産に携わる人々の工夫や努力を実感し、日本の農業について意欲的に学習を進め、抱えている問題点について考えることができる。
- 体験活動を通して、食糧生産の重要性を実感し、食への関心を高め、生活に生かそうとする。

主な学習活動（社会科 10 時間、総合的な学習の時間 10 時間）

事前学習

（6～7月）

収穫体験

（8月）

振り返り

（9月）

家庭で調理

（9月）

- ・さとらんどの協力のもと「枝豆・トウモロコシ」の収穫体験を実施した。収穫作業の方法や手作業の大変さを学んだり、雨が降った後で足元がぬかるむ中でも収穫をしなければならぬという体験をすることができた。
- ・子どもは、この体験を通して農家で働く人々の工夫や努力を肌で感じながら収穫し、話の中からおいしいトウモロコシの選び方などを学ぶことができた。
- ・立ったり屈んだりしながらの作業となり、悪戦苦闘してトウモロコシや枝豆を収穫した。子どもは、おいしいと教えていただいた粒の多いトウモロコシを目をきらきらと輝かせながら見付け出し収穫していた。
- ・2種類のトウモロコシと枝豆を収穫した子どもは大切に家庭に持ち帰り、各家庭で調理をして食べた。ほとんどの子どもが塩ゆでにして食べたようである。とても甘みがあり旨みがしっかり詰まった作物を食べて大いに満足し、食への関心を高めることになった。



取組を終えて

子どもの声（感想）

「収穫するだけでも大変だったのでこれを昔の人たちは一つ一つやっていたことを考えるとその作業の大変さを感じた。」「実際にやってみることで、枝豆やトウモロコシだけでなく様々な作物に感謝の気持ちをもって味わって食べたいと思うようになった。」

取組の成果

社会科「食糧生産を支える人々」の学習を通して生産者の工夫や努力について具体的に学んだ後に、実際に夏の収穫体験をし、多くの手間と愛情を注ぎながら作物を生産していく大変さや喜びを肌で感じる事ができ、生産者の思いや願いに迫ることができた。

体験先、関係機関

サッポロさとらんど（札幌市）